

大分県下のシイタケほだ木の害菌 (V)

——作業時期と鹿川病被害について——

大分県林業試験場 千原賢次
松尾芳徳
小山田研一

クヌギ原木の伐採時期や玉切り接種時期等が、鹿川病被害発生といかなる関連があるかを調査し、この被害発生を最小限度に抑えるための作業時期を見出すことを目的とした試験である。

なお、この試験は52年度に大分、宮崎、熊本各県および国立林試九州支場との共同試験として実施したものであり、大分県の結果についてその概要を報告する。

I. 試験方法

大分県内で鹿川病被害の激甚地域である竹田市神原と天瀬町本城地区で、51年11月と52年1月にクヌギ原木を伐採し、葉枯し期間を置かないでただちに玉切り接種、および葉枯し期間を60日、120日、180日(1月伐採については120日まで)置いて玉切り接種を行ない、両試験地における前年度までの鹿川病激害地および軽害地に伏込を行った。

原木の樹令は竹田試験地は21年生、天瀬試験地は15年生である。伏込型はよろい伏とし、クヌギ枝葉を笠木として用いた。1試験区の本数は立木2本分で1mに玉切った。(表一参照)種菌はヤクルト春2号を用いた。

II. 調査事項および方法

昭和53年1月に全供試ほだ木を剥皮して、次の諸調査を行った。

- (1) 鹿川病被害発生ほだ木本数率。
- (2) ほだ付率(全面剥皮による肉眼判定)
- (3) 伏込地の水分蒸発量調査(全伏込地の笠木下約60cmの個所の水分蒸発量を5月～9月まで実施)

III. 調査結果

鹿川病被害発生本数率は図一のとおりで、竹田試験地の場合、軽害伏込地の方が、激害伏込地より被害本数率が高い結果となった。天瀬試験地の激害伏込地の11月伐採、3月玉切り接種区では83.2%という高い被害率であった。総体的には11月伐採と1月伐採を比較した場合、1月伐採の方がすべて被害率が低い結果となった。

次に、伐採玉切りまでの日数差による比較では、11月伐採木の場合、竹田の軽害伏込地の結果を除いてす

べて伐採後60日経過後で被害率をもっとも低くなり120日経過後にもっとも高くなるような同型の傾向を示した。1月伐採木については玉切りまでの日数差による被害率に大差はなかった。

11月伐採木で180日経過のものについては胴枯菌等被害が他に比較して多く発生していた。

次にほだ付率の調査であるが、試験地間の平均ほだ付率では総体的に天瀬試験地の方が高い。激、軽害伏込地間の比較では激害地の方が高い。次に、11月伐採木と1月伐採木を比較した場合、竹田の軽害地の1例を除いて総体的に11月伐採木の方が高い傾向になったが、明確な差は出なかった。伐採後玉切りまでの日数差による比較の場合、伐採後60日経過後に玉切り接種したものが、総体的にほだ付が良好であった。

水分蒸発量の調査結果については、竹田、天瀬両試験地とも軽害伏込地の水分蒸発量は累積で、激害伏込地のそれに比べて明らかに多く、過去調査した結果と同様であった。竹田試験地の軽害伏込地は尾根筋、激害伏込地は凹部、天瀬試験地の軽害伏込地は原野開放地、激害伏込地はクヌギ林内で地形、林況からも両試験地の激、軽害伏込地間の通風の良否はそのまま、水分蒸発量の差となって表われているように思える。

IV. 考察

いわゆる鹿川病をいかに低い被害に抑えるかということになると、この試験結果からでは、1月伐採を行うか、あるいは11月伐採の60日経過後に玉切り接種を行えば被害率を低くすることも可能と思われる。

竹田試験地の軽害地の被害率が、激害伏込地に比べて高い結果となったことや、11月伐採木の玉切りまでの日数による被害率が他の3伏込地とまったく異なる傾向になったことについては判然としなかった。

11月伐採木で180日経過のものについては、鹿川病は比較的少なかったが、胴枯菌等の被害が非常に多く、過乾燥の害が出ている。

次に、ほだ付の良否が原木の伐採時期の差によるものか、伏込地の環境によるものかこの試験からでは判然としないが、いずれにしても、伐採後60日経過後に玉切り接種したものが、ほだ付が比較的良好であったが、シイタケ子実体発生量についても差がないかどうか

か今後究明を行って最適の作業時期を見出さねばならない。

表-1 試験区分

試験地	伐採年 月 日	伏込地	供試ほだ木数及び玉切り接種 までの日数			
			0日	60日	120日	180日
竹	51年 11月24日	激害地	20本 (11月)	19本 (1月)	20本 (3月)	20本 (5月)
		軽害地	19 (11月)	20 (1月)	20 (3月)	20 (5月)
田	52年 1月18日	激害地	20 (1月)	20 (3月)	19 (5月)	—
		軽害地	20 (1月)	18 (3月)	18 (5月)	—
天	51年 11月10日	激害地	18 (11月)	16 (1月)	17 (3月)	13 (5月)
		軽害地	18 (11月)	15 (1月)	16 (3月)	14 (5月)
瀬	52年 1月28日	激害地	17 (1月)	15 (3月)	16 (5月)	—
		軽害地	17 (1月)	14 (3月)	14 (5月)	—

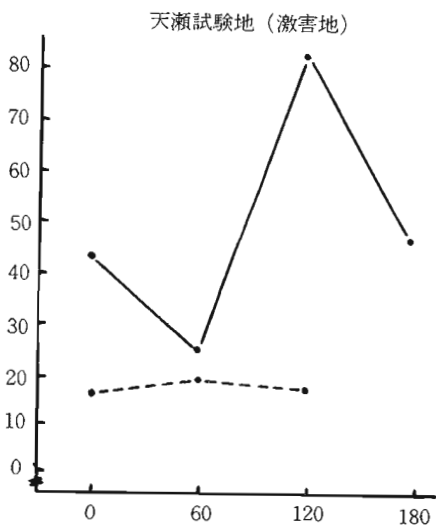
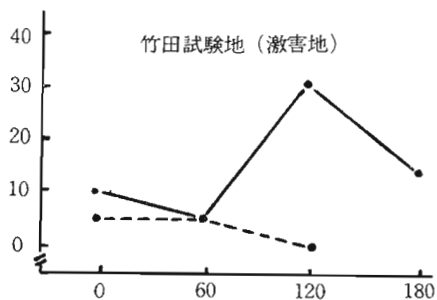
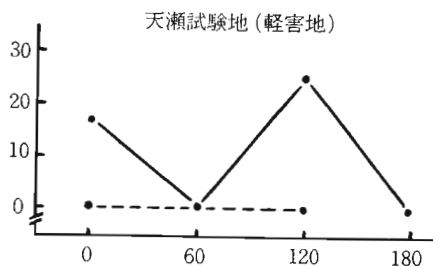
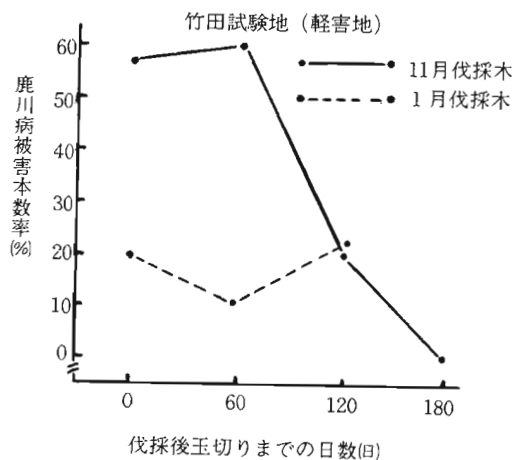


図-1 伐採後玉切りまでの日数と鹿川病被害率